



© 26 SANRIO CO., LTD. APPR. NO. L663829

NIE
教育に
しん
新聞を

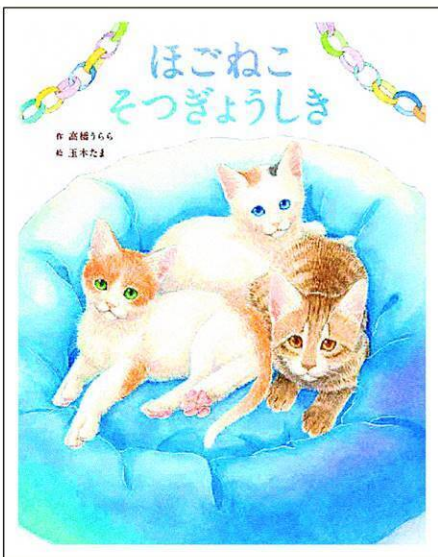
4

しょうがく 1・2 年生向け

ほごねこそつぎょうしき

たかはし うらら 作 さく たまき え 絵 うめだ たつ や かん しゅう 監修
高橋うらら作 玉木たま絵 梅田達也監修

どうぶつあいご 動物愛護センターでは、ひとりでは生きていけない子ねこを保護し、新しい飼い主が見つかるまであずかって世話をするボランティアがいます。ある日、やせた3匹のほごねこがぼくの家にやってきました。はじめはこわがっていた子ねこたちも、毎日ごはんをあげたり、一緒に遊んだりして世話をするうちに、少しずつなつき、甘えてくるようになりました。しばらくして、ママから、子ねこたちの新しい飼い主を探すために、日曜日に見学会へ連れていくよと言われます。さみしさのあまり泣いてしまったぼくは、子ねこたちを笑顔で送り出すことができるでしょうか。



いわさきしょうてん (岩崎書店) 1760円

しょうがく 3・4 年生向け

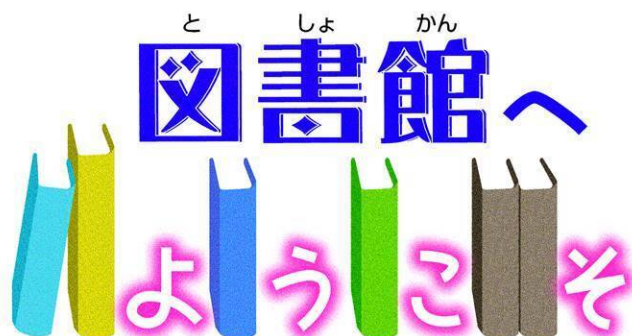
ごみを拾う犬もも子

なかの えいみょう 作 ナカノエミ絵
中野英明作 ナカノエミ絵

ゴールデン・レトリバーのもも子は、飼い主の住職さんといっしょにごみ拾いをしながら、毎日岩崎川の土手を散歩しています。川に流れてくるごみや土手に捨てられたごみ、流れ着いたごみを見つけると、もも子は口にくわえて住職さんのところまで運びます。もも子と住職さんは、きれいな町になることを願いながら、ごみを拾い続けますが、ごみはなかなか減りません。そんなある日、住職さんがもも子に代わって書いた作文が、地元の新聞に掲載されます。それをきっかけに、もも子は「ごみ拾い犬」として多くの人に知られるようになります。この本は、岩手県盛岡市で13年間にわたってごみを拾い続けたもも子のじつわ実話をもとにした物語です。



(ハート出版) 1760円



ボランティアを知ろう

2026年は、国際連合(国連)が定めた「持続可能な開発のためのボランティア国際年」です。身近な人への思いやりや、だれかのために行動することは、ボランティアの第一歩。みなさんもボランティアについて考えてみませんか。

(山梨県立図書館 志村彩夏)

＝毎月第2週に掲載します

しょうがく 5・6 年生向け

あっちにもこっちにもこども食堂

もちなおみ作

こども食堂は、小学生以上の子どもが1人でも安心して利用できる、無料または低額の食堂です。全国各地にあり、場所や活動内容はそれぞれ違いますが、「みんなでごはんを食べること」「人とつながること」「安心して過ごせる場所であること」を大切にしています。この本では、全国7カ所のこども食堂の取り組みを紹介しています。千葉県ちばけんの小学校で学期ごとに開かれる「根本内おはようこども食堂」や、大学生が子どもたちを大学に招いて交流する「電気通信大学こども食堂」など、その活動はさまざまです。また、食堂の運営には地域の人々や学生など、多くのボランティアが関わっています。こども食堂のいろいろな活動について知ることができる一冊です。(文研出版 1760円)

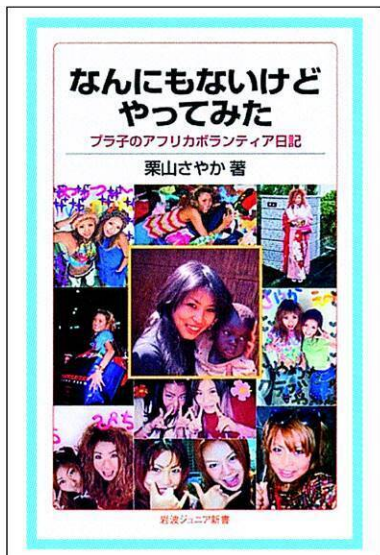


ちゅうがくせい 中学生向け

なんにもないけどやってみた

くりやま 栗山さやか著

著者の栗山さんは、幼なじみを乳がんで亡くしたことをきっかけに、東京・渋谷のショップ店員を辞め、バックパッカーとして海外へ旅立ちます。旅の途中でアフリカの貧困や病気に苦しむ人々の現状を知り、エチオピアのHIVの支援施設でボランティアとして働くため、アフリカを訪れます。そこには生と死が身近にあり、医療や教育を十分に受けられない人々の厳しい現実がありました。支援施設での経験を通して「困っている人のために自分の時間を使いたい」という夢を見つけた栗山さんは、モザンビークで貧しい女性や子どもたちを支援するNPO「アシャンテママ」を立ち上げます。この本には、その体験で感じたことや考えたことが、素直な言葉でつづられています。



(岩波書店) 1144円